

紀要創刊にあたって

知覧特攻平和会館は、1975（昭和50）年に建設された「知覧特攻遺品館」を前身として、1987（昭和62）年に開館しました。

まだ戦争の記憶が生々しくあったであろう1955（昭和30）年に、知覧特攻観音堂が知覧飛行場跡地の一角に建立され、以来毎年慰霊祭が催されることとなりました。慰霊に訪れる特攻作戦にかかわった方々、とりわけ特攻戦死された隊員の御遺族並びに特攻を命ぜられ生き残られた方々、そして特攻隊員が最期に交流を持った知覧地域の人々の記憶を継承する場としての役割を、知覧特攻遺品館そして知覧特攻平和会館が担ってまいりました。

しかしながら知覧特攻遺品館の開設から40年以上の時を経て、特攻の記憶を持った方々が高齢となり、また多くが故人とられました。

こうした時代の移ろいに、知覧特攻平和会館としては、新たなまた多岐にわたる役割を自覚せざるを得ません。その一環として、ここに初めて紀要を刊行するものです。

知覧特攻平和会館は、御遺族、関係者から託された一次資料をありのままに展示し、来館者それぞれの立場で考えていただくスタイルを貫いています。その姿勢はそのままに、知覧特攻平和会館が何を託され何を保管しているのかを、来歴や客観的な背景とともに、この紀要で明らかにしてまいります。そして、未来に向けてどう保存していくのか、その研究の成果を記録してまいります。

なぜ命の尊厳を無視した特攻作戦が行われてしまったのかを考えるうえで最も重要なのは“その時何が起きていたのか”を正確に知ることに他なりません。

知覧特攻平和会館が所蔵する多くの資料は、74年以上前に特攻隊員が命を刻み込んだものであり、戦後御遺族が抱きしめ続けてきたものであります。その想いに深く敬意をはらいつつ、残されたものから、冷静に学ぶことこそが、残してくださった多くの方々の御努力に報いることと信じます。

平成31年3月

南九州市長 塗 木 弘 幸